



岳下っ子だより

あと4日…

早いもので、2学期も残すところあと4日となりました。子どもたちは、2学期の足跡を振り返るとともに、それぞれの学級で話し合ったイベントを開催するなどして、生き生きと学校生活を送っています。



しかしながら、新型コロナはここに来て再び感染が拡大し、この感染症の厄介さを改めて感じています。いつ誰が感染してもおかしくない状況の中、保護者の皆さんには、日々の感染防止策を徹底するとともに、本人やご家族の健康状態によっては万が一を考えて登校を控える等の対応をしていただき、本当にありがとうございます。お陰様



で、今のところ、校内での感染拡大は抑えられている状況です。人が集まることの増える年末年始となりますが、引き続き、マスク着用、手指消毒、極力人混みを避ける等の感染防止策にご協力くださいますよう、よろしくお祈りします。

今年の漢字

12月12日(月)、今年の世相を表す漢字が発表されました。日本漢字能力検定協会が全国から募集し、最も選んだ人が多かった漢字は「戦」。



その理由としては、
 ・ロシアのウクライナ侵攻
 ・サッカーW杯での日本代表の試合
 ・MLBの大谷翔平選手の活躍
 ・新型コロナや物価高への対応
 等があげられるということです。

サッカーW杯での日本代表の活躍には、私もたくさんの勇気と元気をいただきましたが、「戦」という漢字は、ロシアのウクライナ侵攻、「戦争」のイメージが強く、未だ終わりの見えない状況に心が痛みます。来年こそは平和な世界を取り戻したいと願わずにはられません。

挑

では、「岳下小学校の今年の漢字は何だろう」ということで、私なりに今年を振り返ってみました。そして、浮かんできたのが「挑戦」の「挑」です。その理由は、新しいことに挑み、できることが広がった1年だったからです。

○ 昨年度より、オンライン授業がいつでもできるようにと準備と試行を重ねてきましたが、オンライン授業の試行を始めたのが、今年の1月26日です。その後も教職員研修を行いながら日々の授業でタブレットを活用し、今では、学校を休んでもオンラインで授業に参加できるようになりました。オンラインを使って外部講師からの指導を受けられるようにもなりました。



○ 今年度は、学校の重点目標に「自ら動き出す子ども」を掲げ、子どもたちの主体性を育むことに力を入れています。4年生以上の子どもたちで実行委員会を立ち上げて実施した「運動フェスティバル」は、これまではなかった新しい試みでした。実行委員を希望する子どもたちが多く、子どもたちが主体的に創り上げた「運動フェスティバル」となりました。



○ 今年度から岳下小学校は、「コミュニティ・スクール」となりました。学校運営協議会では、委員となった方々が、子どもたちを支えるためのアイデアをたくさん出してくださっています。「岳下小オリエンテーリング」は、保護者の皆さんだけでなく、地域の方々のご協力をいただけたからこそ実現できました。上級生の自覚が高まり、下級生は上級生を敬い頼りにして、互いの信頼が深まりました。



上記のものは、「挑」のごく一部です。どの学級も「話し合い・語り合い」を大切にして、「やりたいことやりたい自分」を意識しながら挑戦を続けています。私たち教職員も、「学び合う」姿勢を大切にし、教職員研修を重ねています。

情報モラル教育オンライン出前授業

12月14日(水)、4～6年生の「情報モラル教育オンライン出前授業」を行いました。これは、LINE みらい財団が行っているもので、担当者と教室をオンラインでつなぎ、情報モラルについての学習をするものです。

「①すぐに返信がない」「②なかなか会話が終わらない」「③知らないところで自分の話題が出ている」「④話をしている時にケータイ・スマホをさわっている」



「⑤自分が一緒に写っている写真を公開される」と書かれている5枚のカードについて、自分が最も嫌なことから並べました。

すると、人によってその順番が異なります。そこで、この「順番が異なる」ということが、どんなトラブルを引き起こす可能性があるかについて、グループで話し合い、話し合った内容を発表しました。



人によって「イヤな言葉」や「イヤなこと」はちがう。特にネットだと、相手の表情・感情が分からないので、相手がイヤがっていることに気が付きにくい。

自分はイヤなことをしているつもりはなくても、もしかすると…

自分はイヤなことをされたと思っていても、もしかすると…

ネットはとても便利なツールです。しかし、使い方によっては、人の心を傷つける残酷なツールになりかねません。子どもたちは、そのことを、友達と話し合いながら見つけ出していきました。

二本松萬古焼・二本松焼について学び、陶芸体験をしました

3年生は、総合的な学習の時間に、「岳下のじまん」について学習しています。二本松萬古焼の井上窯もその一つです。

12月12日(月)、3年生は井上窯に行って二本松萬古焼・二本松焼の歴史を学び、作業場の様子やお店に飾られた数々の作品などを見せていただきました。



15日(木)には、井上窯の井上善夫さんと奥様のゆう子さんに来校いただき、陶芸体験をしました。



粘土を板状にして作る「タタラづくり」という工法で皿を作ります。まず、粘土のかたまりをたたいて丸く伸ばします。厚さが均一になるように、新聞紙にのせた粘土を回しながら、手のひら(親指の付け根のあたり)でたたきます。

粘土が平らになったら、裏面に名前を書きます。焼き上がったときに名前の部分が引っかからないように、鉛筆の先で付けた点をつないで文字にします。

最後に皿の縁を立てていきます。薄すぎないように、使いやすいように、両手を上手に使って縁を作りました。



子どもたちの作品は、この後、井上窯で乾燥、素焼き、本焼きを行って、それぞれの手元に戻ってきます。焼き上がりが楽しみです。